

AEGIS-Women イベントご報告

(MasterClass for AEGIS-Women with MasterClass for AEGIS-Kids)

2019年2月2-3日、メドトロニックイノベーションセンター（神奈川県川崎市）にて、MasterClass for AEGIS-Women を開催しました。

29名の参加者と、AEGIS-Women 運営委員3名、お子さん20名が集まり、盛会となりました。



「消化器外科女性医師の活躍を応援する会(AEGIS-Women)」会長代理
東京大学大学院消化管外科 野村 幸世

皆様、こんにちは。会長代理の野村です。このたび、コヴィテイエン・ジャパン株式会社との共催で第2回 MasterClass for AEGIS-Women を開催しました。

1日目にはまず、北里大学の渡邊昌彦先生に特別講演をいただき、大分大学の猪俣雅史先生に腹腔鏡下大腸切除術の手技のポイント解説を、北里大学の比企直樹先生に腹腔鏡下胃切除術の手技のポイント解説をいただきました。そして、秋田大学の蓮沼直子先生に外科医のキャリアプランを考えるグループディスカッションをしていただきました。



センターに隣接するホテルが今回のセミナーの宿泊先となっており、こちらで懇親会を開催いたしました。懇親会はお子様連れで大賑わいとなりました。グループディスカッションのおかげで、すでに皆が打ち解けて楽しい雰囲気でした。



2日目は岩手医科大学の大塚幸喜先生の大腸手術の解説、順天堂大学の福永哲先生の胃手術の解説の後、いよいよトレーニングへ。私もカメラ持ちで参加させていただきました。皆、一流の優しい講師の先生方のご指導で、とても楽しく、真剣に取り組みました。私のテーブルは自治医大さいたま医療センターの阿部郁先生と JA 徳島厚生連吉野川医療センターの武原悠花子先生でした。おふたりには経験年数の違いがありましたが、初対面にもかかわらず、きちんと教えあい、い



い雰囲気でした。私もとても勉強になりました。

子ども達は昨年引き続き、キッズラボで腹腔鏡シミュレーションの基礎トレーニング、最後にはタイムを競い合い、トレーニングの成果を見せました。昨年同様のビーズ運びに加えて、AEGIS-Women 運営委員の大越先生が結紮を指導。その場で子ども達にはマスターしていただき、その速さを競いました。閉会式では、子ども達の表彰式もあり、将来は外科医になろうと思ったお子さんもたくさんいらっしゃったと思います。



全体を通じて、本当に和気藹々と楽しく、コヴィテイエン・ジャパン株式会社の社員の皆さまの手厚いご

協力のおかげで素晴らしいセミナーになったと思っています。私は肩の筋肉痛+嗔声になっていますが（トレーニングで力みすぎたようです）、とても充実した2日間でした。

ご協力いただきました、講師の先生方、共催のコヴィテイエン・ジャパン株式会社様、ご参加いただきました先生方、本当にありがとうございました。



ご指導いただいた講師の先生方

特別講演

渡邊 昌彦先生（北里大学病院 一般・消化器外科 教授）

ラボ指導担当

猪股 雅史先生（大分大学医学部附属病院 消化器・小児外科 教授）

大塚 幸喜先生（岩手医科大学附属病院 外科 特任准教授）

比企 直樹先生（北里大学上部消化管外科 主任教授）

福永 哲先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院 消化器・低侵襲外科 教授）

グループワーク担当

蓮沼 直子先生（秋田大学医学部附属病院 寄附講座 准教授）



講義もグループワークもたいへん充実して盛り上がりました。参加された先生方は、胃・大腸の手術トレーニングに参加しました。

また、このラボでは託児サービスを併設していましたが、子どもたちも昨年同様楽しく盛り上がっていました。また、親たちが手術トレーニングにいそしんでいる間、6歳以上の子どもたちを対象に、腹腔鏡手術を体験する MasterClass for AEGIS-Kids を開催しました。

Master Class For AEGIS-Women に親子で参加して 国際医療福祉大学熱海病院 外科 藤川 善子



今回、5年ぶりに腹腔鏡の手術に入らせていただく機会をいただきました。

卒後3年目で第1子出産後、一度は外科に戻ったものの、第2子の妊娠前後に手術から離れることになり、5年が経っていました。第3子も出産しましたが、小学生になった長女との時間のやりくりは想像を超え、手術復帰を諦めていました。

実は手術経験がないため前日まで参加に悩んでいた私の背中を押したのは、同じ消化器外科をやってきた主人でした。おそらく、私のような者が行くことに意味があると、欠席を許してくれない雰囲気でした。今回はキッズセミナーの参加を考え、長女のみ同伴しました。

1日目に会場入りすると、すでに集まっていたお子さんたちと娘はすぐに打ち解けているようでした。私は、家事を気にすることなく、夜までたっぴりと第一線の先生方の講義を聴くことができました。託児があるからこそその安心感でした。ワークショップでは、冒頭に述べた自身の状況についてグループの先生にお話させていただき、多くのご意見と激励をいただきました。

懇親会会場に向かうと、すでに子供達の輪ができていました。また、ワークショップで私の状況を知った先生方から、お声をかけていただき本当にありがたかったです。

宿泊先の大浴場では、幹事の先生方も一緒に湯船で語り合ったり、子供たちの着替えをさせたりするのに追われました。その様子はどのご家庭も同じなのだと感じました。



2日目、いよいよラボとなり事前講義を受けて臨んだのですが、5年ものブランクのためか、器械の配置、名前についていくのに必死でした。少しでも現場に戻る必要性を痛感しました。それでも、初めて助手をやらせていただき、手術の楽しさを取り戻すことができました。指導して下さった猪股先生が、操作ごとに雰囲気を保つ声かけをしてくださったのが印象的でした。お昼休憩を挟み、器械吻合をした後、猪股先生のご指導で鏡視下の手縫い縫合をさせていただき、大変貴重な経験となりました。

修了式では子供達と大人が向き合って座り、キッズセミナーの表彰も行われました。娘はひとつ賞を頂くことができ、嬉しそうな顔をしていました。帰宅中も大事そうにメダルを眺め、帰宅後に、腹腔鏡手術には二酸化炭素を使うのだ、と主人に教えていました（笑）。セミナーの始めに、野村先生が子供を預かるだけの託児ではないキッズセミナーにしたい、とお話しされていましたが、その通りであったと思います。また同世代の子供の親でもある全国の外科医の先生方との出会いは宝物になりました。

幹事の先生方、講師の先生方、コヴィディエン・ジャパン株式会社の皆さま、託児スタッフの皆さま、本当にありがとうございました。



第 2 回 Master Class for AEGIS Women に参加して 防衛医科大学校 外科学講座 永田 健

今回、私は夫婦ともに消化器外科医ということもあり、妻に誘われる形で第 2 回 Master Class for AEGIS Women に参加させていただきました。私たちは、後期専門研修医の時に結婚、そして子供の誕生というライフイベントがありました。どちらも外科医として成長したい、手術したいという時期と重なって非常に悩みながら生活を送っていました。今回の企画は主に女性医師に向けられたものと思いつつ、参加致しました。しかし、実際に参加してみると、腹腔鏡手術のエキスパートの先生方から直々に手術手技に関するレクチャーを受けたのに加え、家庭を持ち子育て中にいかに成長するかという共通の問題点を抱えた外科医が集まり、現状や解決策を話し合うという内容でした。

家庭と自らのキャリアに関して考える機会となり、参加者として集まった先生方が抱える問題点や解決策を共有することが出来、情報交換も行うことが出来ました。また、腹腔鏡手術のエキスパートの先生方からの手術手技に関するレクチャーでは、視野展開の仕方やエネルギーデバイスの使

い方など実際に行う際の注意点を細かく教えて頂き、翌日からの実臨床にも生かせるような内容であり、非常に勉強になりました。

今回のセミナー参加は、今後の外科医だけではなく、夫婦ともに外科医である家庭においても大きな財産になると思います。機会がありましたら次回以降も夫婦で参加して、子供にもキッズセミナーに参加させたいと思います。今回はありがとうございました。

2019 年 Master Class for AEGIS-Women に参加して 防衛医科大学病院 永田 博美

夫婦で Master Class for AEGIS-Women に参加いたしました。大学で先輩女性医師に紹介されて AEGIS-Women に参加登録していたものの、正直なところ“女性の社会参加”についての会というものに対してやや苦手意識がありました。メディアでのいわゆるフェミニスト系のコメンテーターの発言や、初期研修医のころに参加したある学会の女性医師セッションにおける、やや感情的な論調に対して当時の私はやや抵抗感を感じていたためです。当時の私はまだ独身でしたし、外科医として同期以上のスピードでキャリアアップしたいと考えておりました。今から思えば、同じ女性として“ヒステリック”にも聞こえるような論調の討論を好ましく思わなかったのではないかと思います。しかし、年齢を重ね、日本と諸先進国との女性キャリアの違いや社会福祉の違い等が気になり始めました。そして、自分が出産・育児を体験するに至って、周囲の男性達との違いにようやく気づきつつあった時期に AEGIS-Women という会を知り、改めてこのような会の重要性に気づきました。

今回のセミナーでは、豪華な講師の先生方から講義や手術手技のご指導を直接受けることができました。帰り道、直接ご指導いただいた点について、夫と共に大変興奮していました。さらに、昔の医局制度から変わりつつある現在、女性のみならず男性も抱えるキャリアの悩みについて考え、ディスカッションする講義もありました。その中で、同じような境遇の消化器外科医の先生方の中にも様々な意見があるということや、男性医師からの意見をうかがうことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、自分では実際に調べたり利用したりすることのなかった、社会福祉やベビーシッター等のサービスについても考える機会になり、早速利用してみようかと考えております。

この度は大変貴重なセミナーを企画くださり、誠にありがとうございました。また機会がありましたら是非とも参加させていただきたく存じます。

MasterClass for AEGIS-Kids を担当して AEGIS-Women 運営委員 大越 香江

セミナーの託児の中のプログラムの一環として、6 歳以上のお子さんを対象に講義とゲーム形式の実習を担当しました。まず、手術に使用する器械や腹腔鏡手術を紹介しました。自動吻合器の説明の動画も興味深く見てもらえたと思います。そして、出血が止まる仕組みなどについてスライドで説明し、理科の勉強もしました。みなさん赤血球も血小板も知っていて優秀でした。



続いて腹腔鏡手術のトレーニングボックスで、手術用鉗子を用いてビーズを把持して移動させるゲームをしました。これは昨年と同様のゲームだったのですが、昨年も参加したお子さんも、今年初めてのお子さんも大興奮で、真剣に取り組んでいました。どうしても身長が低く手が小さいお子さんには不利なのですが、それでも年上のお兄さんお姉さんたちに負けじと取り組む姿は素晴らしいと思いました。



去年と同じ内容だけでは面白くないので、今年は新しいことにもチャレンジしました。結紮です。針付だと危ないので、あらかじめ通しておいた糸をドライボックス内で結紮してもらいました。大人でも難しい操作ですから、お子さんにも相当難しく、悪戦苦闘していました。真剣にずっと静かに取り組んでいるお子さんや、途中で抜けてまた戻ってきてチャレンジするお子さんなど、いろいろで興味深かったです。

全体の修了式の前にお子さん達の様子をスライドショーで流し、表彰式も行いました。メダルをもらってニコニコのお子さん、悔しがらるお子さんもおられて、悲喜こもごも(?)でした。悔し涙を流すお子さんもいましたが、それだけ真剣に取り組んだ証であり、昨年の様子と比較しても子どもたちの成長を頼もしく思いました。

参加いただいたお子さんには、外科医に興味をもっていただいたようです。また、親子一緒に参加していただくことで、子育て中の外科の先生方が手術トレーニングを受けやすい環境を提供できたのではないかと思います。